

## 再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担当課：都市・地域整備局 街路課

担当課長名：松谷 春敏

事業名	まんばふじまえん ながすか かとうきょう 都市計画道路万場藤前線（長須賀架道橋）	事業区分	街路	事業主体	名古屋市
起終点	自：名古屋市中川区助光一丁目 至：名古屋市中川区伏屋三丁目	延長	0.8 km		
事業概要	本事業は、近鉄名古屋線の庄内川・新川間を高架化することにより、近鉄名古屋線により分断されている、都市計画道路万場藤前線の整備を行うものである。本事業の実施により、3箇所の踏切を除却し、都市計画道路万場藤前線を始めとする7箇所の交差道路を設けることにより、交通渋滞、踏切事故及び地域分断の解消を図る。				
H19年度事業化	S34年度都市計画決定 (H12年度変更)	H20年度用地着手 (借地)	H19年度工事着手		
全体事業費	100億円	事業進捗率	14%	供用済延長	km
計画交通量	9,700台/日				
費用対効果 分析結果	B/C： (事業全体) 1.1 (残事業) 1.3	総費用：(残事業)/事業全体 76/92億円 事業費：76/92億円 維持管理費：0.06/0.06億円	総便益：(残事業)/事業全体 96/96億円 走行時間短縮便益：87/87億円 走行経費減少便益：6.9/6.9億円 交通事故減少便益：2.5/2.5億円	基準年： 平成19年	
事業の効果等	・円滑なモビリティの確保（鉄道部の通り抜けが出来ないため、鉄道北側のみで運行しているバス路線の利便性向上が期待できる） ・ネットワークの構築（鉄道により分断された都市計画道路万場藤前線が開通することにより地域分断の解消に期待できる） 他3項目に該当				
関係する地方公共団体等の意見	「中川区区政協力委員協議会」などから立体交差化の要望が毎年寄せられている。				
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	当該路線とJR関西本線との交差部（架道橋）の整備完了。長須賀土地区画整理事業による当該工区北側の開通。当該路線と接続する横井大橋の開通による周辺道路網の構築。				
事業の進捗状況、残事業の内容等	事業認可を平成19年12月に取得し、平成20年1月に事業認可説明会開催。仮線工事の準備に着手する。				
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	仮線工事の準備に着手し、平成24年度の高架切替を目指す。				
施設の構造や工法の変更等	本事業は、鉄道側による施工が大部分であるため、コストの縮減に関しては、経済的な施工方法や構造の検討を鉄道側へ要望している。				
対応方針	事業継続				
対応方針決定の理由	万場藤前線は都市計画道路万場藤前線と国道1号線及び国道23号線とを南北に結ぶ幹線道路であり、現在鉄道により分断されている。また、周辺道路には、小学生の通学路として使用されている踏切もある。鉄道高架化により、万場藤前線の幹線道路としての整備、踏切除却による踏切事故の解消、鉄道による地域分断の解消を図ることができる。				
事業概要図					

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。